

パブリックコメントの結果

「中山町教育振興計画」(素案)についてパブリックコメントを実施しました。その結果は、次のとおりです。

1 意見募集期間

令和8年1月5日(月)から令和8年1月16日(金)まで

2 ご意見・ご要望と事務局の考え

2件(意見提出者 2人)

	ご意見・ご要望の内容
1	<p>1 内心の自由への配慮：心情の規定から「学びの推奨」へ</p> <p>基本目標にある「郷土を誇りに思う」という表現には、昭和54年制定の町民憲章以来の伝統や、第6次総合発展計画の将来像を大切に受け継ごうとする、行政側の真摯な願いが込められているものと拝察いたします。しかし、一方で町民一人ひとりが「どう感じるか」という内心の領域は、それぞれの経験や感性に委ねられるべき非常に繊細な部分です。特定の感情を目標に掲げることは、行政が『こう感じてほしい』という基準を示すこととなります。それは受け取る側にとって、知らぬ間に『あるべき価値観』を押し付けられたり、心の中の自由に踏み込まれたりするように感じてしまう恐れがあります。教育行政の役割は、郷土愛という『結果』を求めることではなく、その土台となる地域の価値を『知る・学ぶ』ためのチャンスを、すべての子ども(町民)に平等に届けることにあるのではないのでしょうか。したがって、内面を規定する表現を避け、あらゆる背景を持つ人々が主体的に地域の価値を理解していける「地域を学び、価値を理解する」といった表現への修正を提案いたします。</p> <p>2 包摂性の向上：「郷土」から「地域」への用語の転換</p> <p>「郷土」という言葉について調べると、「生まれ育った土地(ルーツ)」という強い意味合いがあり、町外からの転入者や多様な背景を持つ住民にとっては、自身が対象に含まれていないような疎外感の要因となる可能性があります。総合発展計画の基本理念である『思いやりの絆で築く みんなの想いが響くまち』を実現するためには、特定のルーツに依存しない、今のつながりを示す『地域』という言葉を用いるべきだと考えます。そうすることで、すべての住民がこの場所を自分たちの場として捉え、共に未来を創る当事者意識をより高めることにつながるものと考えます。したがって、より開かれた表現である「地域」という言葉への置き換えを提案いたします。(この計画(素案)の、別の箇所でも「郷土」という言葉が使用されているようですので、これらも「地域」にあらためていただきたいと思います。)</p> <p>3 「主体性」の尊重と、多様な歩みを支える表現へのお願い</p> <p>本計画において、山形県の第7次教育振興計画(7教振)の理念である「人づくり」を参酌されている点は、広域的な視点として理解しております。その上で、中山町の子どもたちのさらなる主体性を引き出すために、以下の視点を盛り込んでいただくことを検討いただけないでしょうか。</p>

『人づくり』という言葉は教育行政側の積極的な意欲を感じる反面、少し教える側の視点に寄った印象を与えることもあります。子供たちが自らの可能性を広げていく主体的なプロセスを尊重し、それを温かく見守り支えるという意味を込めて、『人の育成』などのより柔らかな表現をご検討いただければ幸いです。これからの時代、教育の主役はあくまで子どもたち自身であり、あらかじめ定められた共通のゴールに向かわせるのではなく、一人ひとりの異なる可能性や多様な歩みを、その子自身の歩みに寄り添って支える姿勢こそが重要であると考えます。どのような個性であっても「今の自分のままで大切にされている」という安心感を持てるような計画であることを願います。したがって、県7教振のやや管理的な響きを持つ「人づくり」という言葉をそのまま使うのではなく、中山町らしく個々の主体的な成長を支援する「人の育成」や「個の成長を支える教育」といった、一人ひとりの多様な在り方を尊重する用語への変更を、ご検討願います。

4 国際的な視野と多様性を尊重する姿勢の導入

町民アンケートでは、英語教育や多様な他者との交流を通してコミュニケーション能力育成を推進することへの期待が非常に高く示されています。これは単なる語学学習への要望ではなく、異なる背景を持つ他者を尊重し、世界に視野を広げて学ぶ姿勢への期待であると捉えています。世界標準の教育理念（OECD ラーニングコンパス 2030、国際バカロレア等）が掲げる「多角的な視野」や「自ら問いを立てる探究心」は、中山町が大切にしているスポーツのレスpekt精神（他者への敬意）とも深く共鳴するものです。したがって、特定の姿を目指させるのではなく、「多様な価値観を尊重し、世界とともに歩む」といった、主体的な姿勢を後押しする文言の検討を提案いたします。

5 基本目標の表現の精査と、親しみやすさについてのごお願い

基本目標の素案を拝見しますと、町の伝統から最新の教育ニーズまで、多くの大切な要素を網羅しようと尽力されたことが伝わってまいります。一方で、盛り込むべきキーワードが多く重なっていることで、子どもたちや町民が日常的に口にし、心に留める目標としては、少し複雑な印象も受けます。多くの要素を一つにまとめるのではなく、それらを整理し、よりシンプルでリズム感のある言葉に磨き上げることで、誰もが親しみを感じ、未来への期待に胸を膨らませられるような基本目標になることを願っております。

【具体的な修正案の例示】

「地域を学び、多様な価値観を尊重して、世界とともに歩む人の育成」
(ポイント)

- ・ 「地域を学び」：「誇り」「思い」などの心情を掲げることを避け、誰もが参加できる「知的探究」を重視。
- ・ 「多様な価値観を尊重して」：特定の「子ども像」を押し付けず、一人ひとりの違いを認め合う姿勢を明文化。
- ・ 「世界とともに歩む」：アンケートのニーズを反映し、多様な他者との交流し、しなやかに生きる力を育むという表現に。
- ・ 「人の育成」：行政が「つくる」のではなく、個々の主体的な歩みを支える表現に。

	<p>以上、町民アンケートに込められた願いと中山町のよさを大切にしつつ、多様な個性が尊重される新しい時代の教育ビジョンとして結実させていただけるよう、前向きな検討をどうぞよろしくお願いいたします。</p>
	<p>【回答】</p> <p>この度は、貴重なご意見ありがとうございます。</p> <p>基本目標については、中山町の教育を取り巻く現状と課題を踏まえ、併せて予測困難な社会の変化に対応できる人間の育成を目指し、中山町教育振興計画策定委員会で協議して設定しました。そのため、ご意見いただきましたとおり、町の伝統から最新の教育ニーズまで、多くの大切な要素を網羅しようと盛り込んだところであります。</p> <p>「郷土（ふるさと）を誇りに思う」という表現については、中山町に関わる人々が中山町のよさを知り、自分たちの住む町を自慢に思えるようにと願いを込めております。</p> <p>「ひとづくり」については、個人の自律的成長、未来への貢献、10年後の中山町が持続可能な町となっているようにという思いを込めております。</p> <p>以上のことから、答申（素案）を修正しないことといたしました。ご理解いただければと思います。</p>

2	<ul style="list-style-type: none"> ・29 ページ グローバル社会を生きる人材育成について <p>外国語教育や国際理解・異文化理解教育もちろん大切ですが、自身の地域や文化への理解を深める学びも必要かと思えます。自分たちの住む地域について学び、それを国内の他の地域の学校、そして国外の学校と交流しながら、相互に紹介するような授業ができればいいと考えます。</p> ・30 ページ 指導体制の強化について <p>研修や働き方改革の一環として、教員の心を守る取り組みも積極的に行う必要があると感じます。教員のストレスを軽減し、やりがいを持って指導にあたる環境づくりに努めていただきたいと思います。</p> ・31～32 ページ いのち・こころの教育の充実について <p>性教育やこころの教育には家庭も一緒に取り組んでいくべきと考えます。子供たちにどのように教えていいのかわからないという保護者も多いため、保護者を対象に性や心の問題を学ぶ機会もあればいいのではないのでしょうか。</p> <p>また、いじめや不登校についても、各家庭と十分連携を取りながら問題解決にあたるべきです。そして、登校しぶりの様子が見られる児童生徒についてはオンラインで授業に参加するなど、学校との繋がりを絶やささないような対策が必要です。</p> ・39 ページ 文化遺産の保存・継承・活用について <p>旧柏倉家住宅や歴史民俗資料館は来館者を増やすためのさらなる取り組みが必要と考えます。特に、資料館は町民でも一度も行ったことがないという方も多いようです。ギャラリートーク等の集客が図れるイベントをもう少し多く開催し、子供たち向けのギャラリートークがあってもいいのではないのでしょうか。昔懐かしい民具もかなり沢山あるので、昔の暮らしを学ぶ授業等で活用してほしいものです。</p> <p>また、無形文化財保護団体への支援においては次世代を担う後継者の育成にも力を入れるべきです。各団体の尽力で受け継がれていますが、後継者不足はどの団体も抱えて</p>
---	--

	<p>いる問題です。小中学生が体験する機会を設けるなど、担い手の育成が必要です。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・40 ページ スポーツ活動の推進について 高齢者、障がい者、女性等、それぞれのニーズに応じたスポーツ活動の機会を提供していくことも大切ですが、多様な人たちが一緒にスポーツを楽しむ場も検討していく必要があると考えます。性別、年代、障がいのある無しに関わらず、共に体を動かす機会があれば、交流によって互いの理解が深まるかと思えます。
	<p>【回答】</p> <p>この度は、貴重なご意見ありがとうございます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・29 ページ グローバル社会を生きる人材育成について 自身の地域や文化への理解を深める学びにつきましては、基本目標Ⅰ－2－3（体験学習・探究学習の充実）やⅡ－2－2（国際理解・異文化理解教育の推進）において取組みの充実を図りたいと考えております。 ・30 ページ 指導体制の強化について 研修や働き方改革の一環として、教員の心を守る取り組みも積極的に行うことについては、基本目標Ⅱ－3－2（研修機会・内容の充実）やⅡ－3－3（働き方改革の推進）において教員のストレスを軽減し、やりがいを持って指導にあたる環境づくりに努めてまいります。 ・31～32 ページ いのち・こころの教育の充実について 性教育やこころの教育で家庭も一緒に取り組んでいくことについては、基本目標Ⅲ－1－1（いのちの学習の推進）やⅢ－2－1（いじめ・不登校の未然防止と早期対応）の具体的取組みに「家庭や関係機関」に係る内容を追記し、取組みの充実を図ってまいります。 登校しぶりの様子が見られる児童生徒についての対応については、児童生徒や保護者の希望に応じて各学校でタブレットを活用したオンライン授業を行っております。今後も、学校・家庭・地域が連携して充実を図ってまいります。 ・39 ページ 文化遺産の保存・継承・活用について 旧柏倉家住宅や歴史民俗資料館への来館者を増やすための取り組みについては、基本目標Ⅴ－2－1（文化財の保存と利活用の推進）やⅤ－2－2（町歴史民俗資料館の資料等保存・公開）において取組みの充実を図ってまいります。 ・40 ページ スポーツ活動の推進について 多様な人たちが一緒にスポーツを楽しむ場については、基本目標Ⅴ－3－1（多様なニーズに応じたスポーツ活動の推進）において事業の充実を図ってまいります。 <p>ご理解いただければと思います。</p>